

環境づくりや部活動など支援

学校支える 地域の人々

今、教育現場では、子どもたちの「生きる力」を育てることが課題になっています。子どもはさまざまな体験を重ねて、社会へと羽ばたいていきます。しかし、学校だけで、その役割を十分に果たせるものではありません。そこで地域の人々の協力が求められているのです。では、地域の教育力をどのように生かせばよいでしょう。西宮市は昨年春から、地域の人に快適な環境づくりの手助けをもらったり、授業や部活動の援助をもらう「学校サポート」にしのみや事業「ささえ」を始めました。ピオトープ作りや樹木の手入れ、図書の整理や読み聞かせなど、さまざまな場面で、地域の人々が学校を支援している姿を紹介します。

完成したピオトープを観察する研究会のメンバーと児童＝
広田小学校



広田小学校 ピオトープ

「学校の応援団として、できることを手伝いたい」と、代表の篠藤博さん(67)は、同校の近くに住むことから「ささえ」に登録しました。機械設計で培った技術を生かし、水が循環する仕組みを作り、橋や木のベンチも手作りです。ヘッド口状だった池は、憩いの空間へと見違えるようになり、以前は近づきにくかった池が、すくきれいになり、高橋教頭は話します。「生かす」とも、子どもたちの姿を自然に体動かし、あいつを交わすようになり、地域との連帯感を持ち始めるんではないか。子どもたちの受け止め方を楽しみ、できた篠藤さんの実感です。

命や自然の大切さ学ぶ

「ささえ」とは、「ささえ」は、学校「環境・美化サポート」総合学習や教育サポーターにしのみや事業の一環で、市内の全小中学校と養護学校を、地域の人々に支援してもらおうと始めた制度です。児童生徒に豊かな体験を積ませるために、地域の協力を得るのが狙いです。現在、学校ボランティアのうち、二千三百人以上が「ささえ」に登録しています。「ささえ」の活動には、花壇の草花や飼育動物の世話、防犯活動などに携わることがあります。傷害保険の対象にもなりません。

「環境・美化サポート」総合学習や教育サポーターにしのみや事業の一環で、市内の全小中学校と養護学校を、地域の人々に支援してもらおうと始めた制度です。児童生徒に豊かな体験を積ませるために、地域の協力を得るのが狙いです。現在、学校ボランティアのうち、二千三百人以上が「ささえ」に登録しています。「ささえ」の活動には、花壇の草花や飼育動物の世話、防犯活動などに携わることがあります。傷害保険の対象にもなりません。

甲武中学校の図書館は、十分間の休憩時間や昼休みに、生徒でいっぱいになります。ソファで本を読む。ストーブで暖をとる。パソコンでインターネットに接続する。それぞれが自由に図書館を楽しんでいます。図書館が生徒たちの人気を集めるのは、理由があります。それは、地域のボランティアの人たちが、常駐してくれていることです。「ページ数が少なくなくて感動できる本、ありますか?」「これなんかどう?」。ボランティアと生徒の会話が弾みます。

甲武中学校 図書館ボランティア

30人体制で常時開館

「落ち着く場所」と人気

「ただ、正式な司書の資格を持つ先生がいれば、もっと効率のよい運営ができるのでは」との要望もあります。田中理校長(56)は「生徒たちが図書館はすっと開いているもの、と思っているのでも利用するようになり、教師以外の大人と接する貴重な場所でもあります」と話します。



生徒に本を勧めるボランティア＝甲武中学校

の保護者や在校生の保護者から七人が協力し、「司書役」を務める図書館ボランティアが始まりました。常時開館は当初、木曜日だけでしたが、二年後にはボランティアの人数が増え、平日は毎日午前10時、午後四時に開館できるようになりました。今は三十人が三時間交代で運営しています。緑を多くしたりソファを置くなど、快適な環境をつくり、図書館が生徒の憩いの場として定着しました。放課後には、落ち着いた場所を求め、生徒が集まり、勉強に励みます。